



クラウド プロバイダの資格情報を管理する

NetApp Console setup and administration

NetApp
February 26, 2026

目次

クラウド プロバイダの資格情報を管理する	1
AWS	1
NetApp Consoleの AWS 認証情報と権限について学習します	1
NetApp Consoleの AWS 認証情報とマーケットプレイス サブスクリプションを管理する	4
Azure	15
NetApp Consoleの Azure 資格情報と権限について学習します	15
NetApp Consoleの Azure 資格情報とマーケットプレイス サブスクリプションを管理する	18
Google Cloud	29
Google Cloud プロジェクトと権限について学ぶ	29
NetApp Console の Google Cloud クレデンシャルとサブスクリプションを管理	30

クラウド プロバイダの資格情報を管理する

AWS

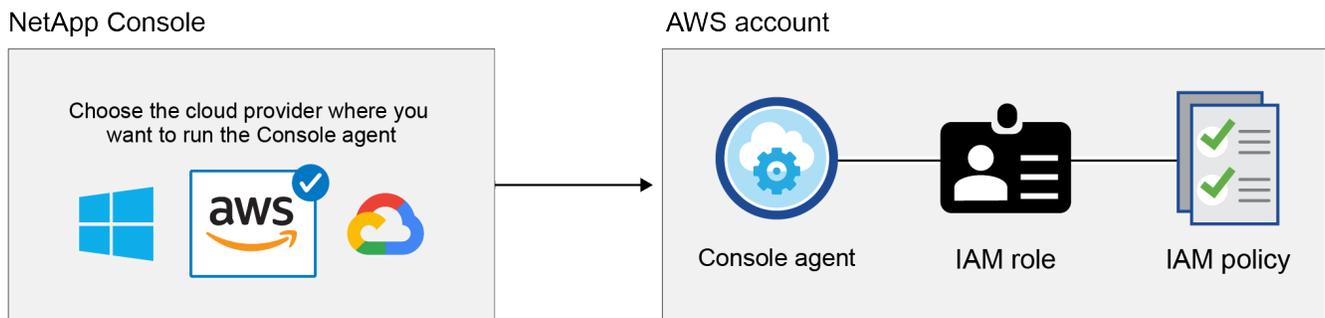
NetApp Consoleの AWS 認証情報と権限について学習します

コンソールエージェントの導入時に適切な IAM 認証情報を提供し、課金のためにそれらを AWS Marketplace サブスクリプションに関連付けることで、NetApp Consoleから AWS 認証情報とマーケットプレイス サブスクリプションを直接管理し、Cloud Volumes ONTAPやその他のデータ サービスの安全な導入を確保します。

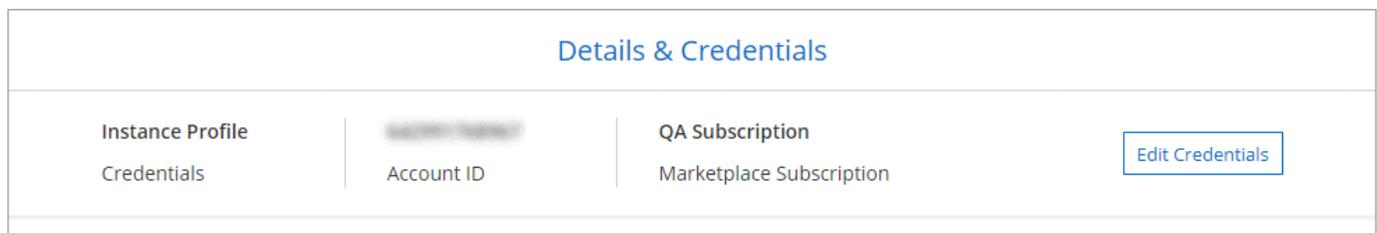
初期AWS認証情報

コンソールからコンソールエージェントをデプロイする場合は、IAM ロールの ARN または IAM ユーザーのアクセスキーを指定する必要があります。認証方法には、AWS にコンソールエージェントをデプロイするための権限が必要です。必要な権限は、"[AWS のエージェント展開ポリシー](#)"。

コンソールが AWS でコンソールエージェントを起動すると、エージェントの IAM ロールとプロフィールが作成されます。また、コンソールエージェントにその AWS アカウント内のリソースとプロセスを管理するための権限を付与するポリシーも添付します。"[エージェントが権限をどのように使用するか確認する](#)"。



新しいCloud Volumes ONTAPシステムを追加すると、コンソールはデフォルトで次の AWS 認証情報を選択します。



初期の AWS 認証情報を使用してすべてのCloud Volumes ONTAPシステムを展開するか、追加の認証情報を追加することができます。

追加のAWS認証情報

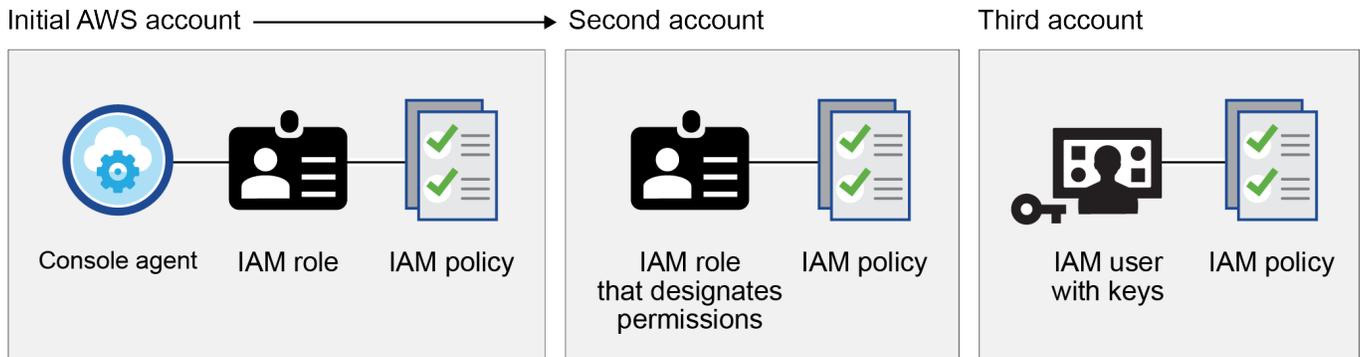
次の場合には、コンソールに追加の AWS 認証情報を追加する必要があるかもしれません。

- 既存のコンソールエージェントを追加のAWSアカウントで使用するには
- 特定のAWSアカウントに新しいエージェントを作成するには
- FSx for ONTAPファイルシステムを作成および管理するには

詳細については、以下のセクションを確認してください。

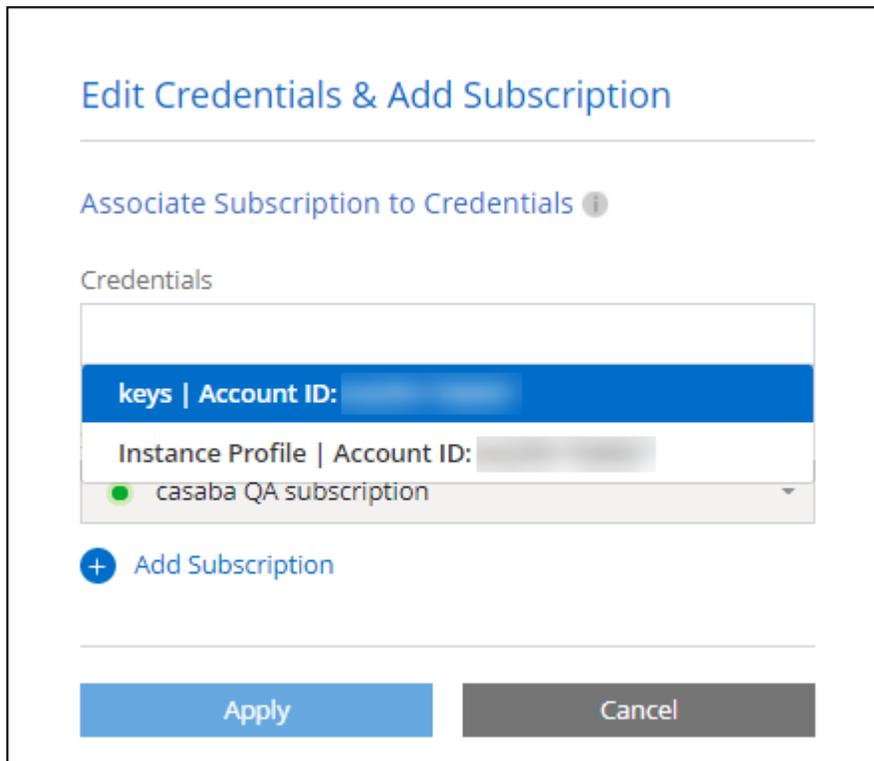
別の **AWS** アカウントでコンソールエージェントを使用するには、**AWS** 認証情報を追加します。

追加の AWS アカウントでコンソールを使用するには、信頼できるアカウントの AWS キーまたはロールの ARN を指定します。次の図は、信頼できるアカウントの IAM ロールを通じて権限を提供するアカウントと、IAM ユーザーの AWS キーを通じて権限を提供するアカウントの 2 つの追加アカウントを示しています。



IAM ロールの Amazon リソースネーム (ARN) または IAM ユーザーの AWS キーを指定して、コンソールにアカウント認証情報を追加します。

たとえば、新しいCloud Volumes ONTAPシステムを作成するときに、資格情報を切り替えることができます。



["既存のエージェントに AWS 認証情報を追加する方法を学びます。"](#)

コンソールエージェントを作成するには**AWS**認証情報を追加します

AWS 認証情報を追加すると、コンソールエージェントを作成するための権限が付与されます。

["コンソールエージェントを作成するためにコンソールにAWS認証情報を追加する方法を学びます"](#)

FSx for ONTAPに **AWS** 認証情報を追加する

FSx for ONTAPシステムを作成および管理するために必要な権限を付与するには、コンソールに AWS 認証情報を追加します。

["Amazon FSx for ONTAPのコンソールに AWS 認証情報を追加する方法を学びます"](#)

資格情報とマーケットプレースのサブスクリプション

Cloud Volumes ONTAPやその他のNetAppデータ サービスの料金を時間単位 (PAYGO) または年間契約で支払うには、コンソール エージェントに追加する認証情報を AWS Marketplace サブスクリプションに関連付ける必要があります。["AWSサブスクリプションに関連付ける方法を学ぶ"](#)。

AWS 認証情報とマーケットプレースサブスクリプションについては、次の点に注意してください。

- AWS 認証情報のセットに関連付けることができるのは、1 つの AWS Marketplace サブスクリプションのみです。
- 既存のマーケットプレースサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えることができます

FAQ

次の質問は、資格情報とサブスクリプションに関連しています。

AWS 認証情報を安全にローテーションするにはどうすればよいですか？

上のセクションで説明したように、コンソールでは、コンソールエージェントに関連付けられた IAM ロール、信頼できるアカウントでの IAM ロールの引き受け、または AWS アクセスキーの提供など、いくつかの方法で AWS 認証情報を提供できます。

最初の 2 つのオプションでは、コンソールは AWS セキュリティ トークン サービスを使用して、常にローテーションする一時的な認証情報を取得します。このプロセスはベストプラクティスであり、自動かつ安全です。

コンソールに AWS アクセスキーを提供する場合は、コンソールで定期的にキーを更新してキーをローテーションする必要があります。これは完全に手動のプロセスです。

Cloud Volumes ONTAPシステムの **AWS Marketplace** サブスクリプションを変更できますか？

はい、できます。認証情報セットに関連付けられている AWS Marketplace サブスクリプションを変更すると、既存および新規のすべてのCloud Volumes ONTAPシステムに新しいサブスクリプションの料金が課金されます。

["AWSサブスクリプションに関連付ける方法を学ぶ"](#) 。

それぞれ異なるマーケットプレイスサブスクリプションを持つ複数の **AWS** 認証情報を追加できますか？

同じ AWS アカウントに属するすべての AWS 認証情報は、同じ AWS Marketplace サブスクリプションに関連付けられます。

異なる AWS アカウントに属する複数の AWS 認証情報がある場合、それらの認証情報は、同じ AWS Marketplace サブスクリプションまたは異なるサブスクリプションに関連付けることができます。

既存の **Cloud Volumes ONTAP** システムを別の **AWS** アカウントに移動できますか？

いいえ、Cloud Volumes ONTAP システムに関連付けられている AWS リソースを別の AWS アカウントに移動することはできません。

マーケットプレイスの展開とオンプレミスの展開では資格情報はどのように機能しますか？

上記のセクションでは、コンソールからのコンソール エージェントの推奨展開方法について説明しています。また、AWS Marketplace から AWS にエージェントを展開し、独自の Linux ホストまたは VCenter にコンソールエージェントソフトウェアを手動でインストールすることもできます。

Marketplace を使用する場合も、同様の方法で権限が提供されます。IAM ロールを手動で作成して設定し、追加のアカウントに権限を付与するだけです。

オンプレミス展開の場合、コンソールに IAM ロールを設定することはできませんが、AWS アクセスキーを使用して権限を付与することはできます。

権限の設定方法については、次のページを参照してください。

- 標準モード
 - ["AWS Marketplace デプロイメントの権限を設定する"](#)
 - ["オンプレミス展開の権限を設定する"](#)
- 制限モード
 - ["制限モードの権限を設定する"](#)
- ["プライベートモードの権限を設定する"](#)

NetApp Consoleの **AWS** 認証情報とマーケットプレイス サブスクリプションを管理する

AWS 認証情報を追加および管理して、NetApp Consoleから AWS アカウント内のクラウド リソースを展開および管理できるようにします。複数の AWS Marketplace サブスクリプションを管理する場合は、[認証情報] ページから各サブスクリプションを異なる AWS 認証情報に割り当てることができます。

概要

AWS 認証情報を既存のコンソールエージェントに追加することも、コンソールに直接追加することもできます。

- 既存のエージェントにAWS認証情報を追加する

クラウド リソースを管理するには、コンソール エージェントに AWS 認証情報を追加します。 [コンソールエージェントにAWS認証情報を追加する方法を学びます](#)。

- コンソールエージェントを作成するためにコンソールにAWS認証情報を追加する

コンソールに新しい AWS 認証情報を追加すると、コンソールエージェントを作成するために必要な権限が付与されます。 [NetApp ConsoleにAWS認証情報を追加する方法を学びます](#)。

- FSx for ONTAPのコンソールに AWS 認証情報を追加する

FSx for ONTAPを作成および管理するには、コンソールに新しい AWS 認証情報を追加します。 ["FSx for ONTAPの権限を設定する方法を学びます"](#)

資格情報をローテーションする方法

NetApp Consoleを使用すると、エージェント インスタンスに関連付けられた IAM ロール、信頼できるアカウントでの IAM ロールの引き受け、または AWS アクセス キーの提供など、いくつかの方法で AWS 認証情報を提供できます。 ["AWS の認証情報と権限について詳しく見る"](#)。

最初の 2 つのオプションでは、コンソールは AWS セキュリティ トークン サービスを使用して、常にローテーションする一時的な認証情報を取得します。このプロセスは自動かつ安全であるため、ベストプラクティスです。

コンソールで更新して、AWS アクセスキーを手動でローテーションします。

コンソールエージェントに追加の資格情報を追加する

コンソールエージェントに追加の AWS 認証情報を追加して、パブリッククラウド環境内のリソースとプロセスを管理するために必要な権限を付与します。別のアカウントの IAM ロールの ARN を提供するか、AWS アクセスキーを提供することができます。

["NetApp ConsoleがAWS認証情報と権限を使用する方法を学ぶ"](#)。

権限を付与する

コンソールエージェントに AWS 認証情報を追加する前に、権限を付与します。権限により、コンソールエージェントはその AWS アカウント内のリソースとプロセスを管理できるようになります。信頼できるアカウントのロールの ARN または AWS キーを使用して、アクセス許可を付与できます。



コンソールからコンソールエージェントを展開した場合、コンソールエージェントを展開したアカウントの AWS 認証情報が自動的に追加されます。これにより、リソースを管理するために必要な権限が確保されます。

選択肢

- [別のアカウントの IAM ロールを引き受けて権限を付与する](#)
- [AWSキーを提供して権限を付与する](#)

別のアカウントの **IAM** ロールを引き受けて権限を付与する

IAM ロールを使用して、コンソールエージェントをデプロイしたソース AWS アカウントと他の AWS アカウ

ントの間に信頼関係を設定できます。次に、信頼できるアカウントの IAM ロールの ARN をコンソールに提供します。

コンソール エージェントがオンプレミスにインストールされている場合、この認証方法は使用できません。AWS キーを使用する必要があります。

手順

1. コンソール エージェントに権限を付与するターゲット アカウントの IAM コンソールに移動します。
2. [アクセス管理] で、[ロール] > [ロールの作成] を選択し、手順に従ってロールを作成します。

必ず次のことを行ってください。

- *信頼されたエンティティタイプ*で、*AWS アカウント*を選択します。
 - 別の **AWS** アカウント を選択し、コンソールエージェントインスタンスが存在するアカウントの ID を入力します。
 - の内容をコピーして貼り付けて必要なポリシーを作成します。"[コンソールエージェントのIAMポリシー](#)"。
3. 後でコンソールに貼り付けることができるように、IAM ロールのロール ARN をコピーします。

結果

アカウントには必要な権限があります。コンソールエージェントに資格情報を追加できるようになりました。

AWSキーを提供して権限を付与する

コンソールに IAM ユーザーの AWS キーを提供する場合は、そのユーザーに必要な権限を付与する必要があります。コンソール IAM ポリシーは、コンソールが使用できる AWS アクションとリソースを定義します。

コンソール エージェントがオンプレミスにインストールされている場合は、この認証方法を使用する必要があります。IAM ロールは使用できません。

手順

1. IAMコンソールから、以下の内容をコピーして貼り付けることでポリシーを作成します。"[コンソールエージェントのIAMポリシー](#)"。

"[AWSドキュメント: IAMポリシーの作成](#)"

2. ポリシーを IAM ロールまたは IAM ユーザーにアタッチします。
 - "[AWSドキュメント: IAMロールの作成](#)"
 - "[AWSドキュメント: IAMポリシーの追加と削除](#)"

既存のエージェントに資格情報を追加する

AWS アカウントに必要な権限を付与したら、そのアカウントの認証情報を既存のエージェントに追加できます。これにより、同じエージェントを使用してそのアカウントでCloud Volumes ONTAPシステムを起動できるようになります。



クラウド プロバイダーの新しい資格情報が使用可能になるまでに数分かかる場合があります。

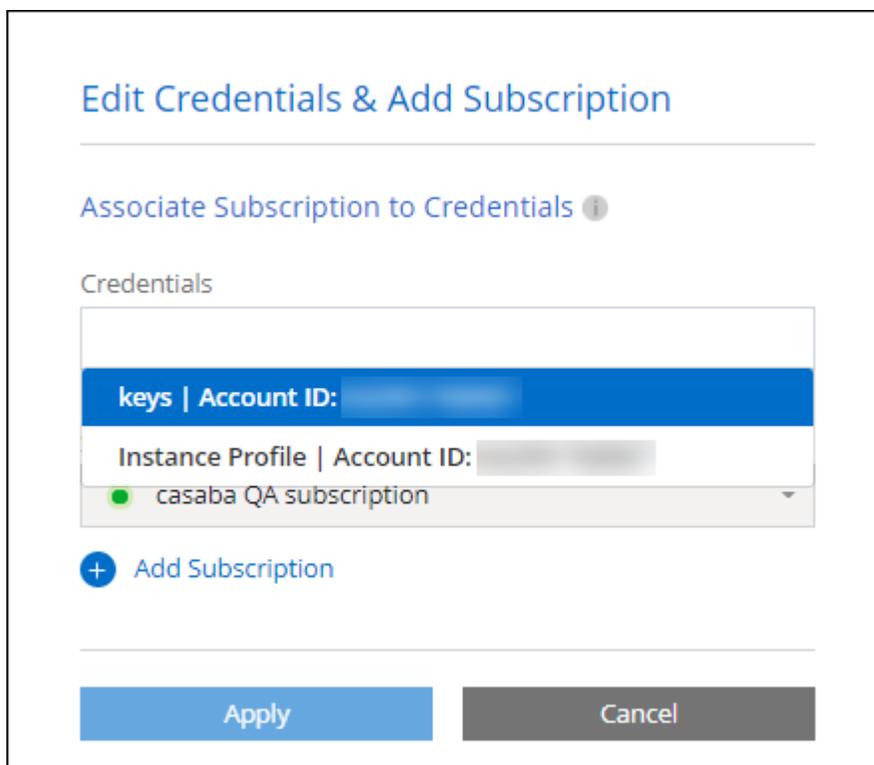
手順

1. 上部のナビゲーションバーを使用して、資格情報を追加するコンソール エージェントを選択します。
2. 左側のナビゲーションバーで、管理 > 資格情報 を選択します。
3. *組織の資格情報* ページで、*資格情報の追加* を選択し、ウィザードの手順に従います。
 - a. 資格情報の場所: *Amazon Web Services > エージェント* を選択します。
 - b. 認証情報の定義: 信頼できる IAM ロールの ARN (Amazon リソース名) を指定するか、AWS アクセスキーとシークレットキーを入力します。
 - c. マーケットプレイス サブスクリプション: 今すぐサブスクライブするか、既存のサブスクリプションを選択して、マーケットプレイス サブスクリプションをこれらの資格情報に関連付けます。

時間単位の料金 (PAYGO) または年間契約でサービス料金を支払うには、AWS 認証情報を AWS Marketplace サブスクリプションに関連付ける必要があります。
 - d. 確認: 新しい資格情報の詳細を確認し、[追加] を選択します。

結果

コンソールにサブスクリプションを追加するときに、[詳細と資格情報] ページから別の資格情報セットに切り替えることができるようになりました。



The screenshot shows the 'Edit Credentials & Add Subscription' page. At the top, there is a section titled 'Associate Subscription to Credentials' with a help icon. Below this is a 'Credentials' section with a dropdown menu. The dropdown menu is open, showing three options: 'keys | Account ID:', 'Instance Profile | Account ID:', and 'casaba QA subscription'. Below the dropdown menu is a blue button with a plus sign and the text 'Add Subscription'. At the bottom of the page, there are two buttons: 'Apply' (blue) and 'Cancel' (grey).

コンソールエージェントを作成するためにコンソールに資格情報を追加します

コンソールエージェントの作成に必要な権限を付与する IAM ロールの ARN を指定して、AWS 認証情報を追加します。新しいエージェントを作成するときに、これらの資格情報を選択できます。

IAMロールを設定する

IAMロールを設定して、NetApp Consoleのサービスとしてのソフトウェア (SaaS) アプリケーションがそのロールを引き受けられるようにします。

手順

1. ターゲットアカウントの IAM コンソールに移動します。
2. [アクセス管理] で、[ロール] > [ロールの作成] を選択し、手順に従ってロールを作成します。

必ず次のことを行ってください。

- *信頼されたエンティティタイプ*で、*AWS アカウント*を選択します。
- *別のAWSアカウント*を選択し、NetApp ConsoleSaaSのIDを入力します：952013314444
- 特にAmazon FSx for NetApp ONTAPの場合は、信頼関係 ポリシーを編集して "AWS": "arn:aws:iam::952013314444:root" を含めます。

たとえば、ポリシーは次のようになります。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "AWS": "arn:aws:iam::952013314444:root",
        "Service": "ec2.amazonaws.com"
      },
      "Action": "sts:AssumeRole"
    }
  ]
}
```

+

参照["AWS Identity and Access Management \(IAM\) ドキュメント"](#) IAM でのクロスアカウント リソース アクセスの詳細については、こちらをご覧ください。

- コンソール エージェントを作成するために必要な権限を含むポリシーを作成します。
 - ["FSx for ONTAPに必要な権限を表示する"](#)
 - ["エージェント展開ポリシーを表示する"](#)
3. 次のステップでコンソールに貼り付けることができるように、IAM ロールのロール ARN をコピーします。

結果

IAM ロールに必要な権限が付与されました。 [コンソールに追加できるようになりました。](#)

資格情報を追加する

IAM ロールに必要な権限を付与したら、ロール ARN をコンソールに追加します。

開始する前に

IAM ロールを作成したばかりの場合は、使用できるようになるまでに数分かかることがあります。資格情報をコンソールに追加する前に、数分お待ちください。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。



2. *組織の資格情報*ページで、*資格情報の追加*を選択し、ウィザードの手順に従います。
 - a. 認証情報の場所: **Amazon Web Services** > コンソール を選択します。
 - b. 認証情報の定義: IAM ロールの ARN (Amazon リソース名) を指定します。
 - c. 確認: 新しい資格情報の詳細を確認し、[追加] を選択します。

Amazon FSx for ONTAPのコンソールに認証情報を追加する

詳細については、"[Amazon FSx for ONTAPのコンソールドキュメント](#)"

AWSサブスクリプションを設定する

AWS 認証情報を追加したら、その認証情報を使用して AWS Marketplace サブスクリプションを設定できます。サブスクリプションを使用すると、NetAppデータ サービスとCloud Volumes ONTAPの料金を時間単位 (PAYGO) または年間契約で支払うことができます。

認証情報を追加した後に AWS Marketplace サブスクリプションを構成するシナリオは 2 つあります。

- 資格情報を最初に追加したときに、サブスクリプションを構成しませんでした。
- AWS 認証情報に設定されている AWS Marketplace サブスクリプションを変更します。

現在のマーケットプレイス サブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えると、既存のCloud Volumes ONTAPシステムとすべての新しいシステムのマーケットプレイス サブスクリプションが変更されます。

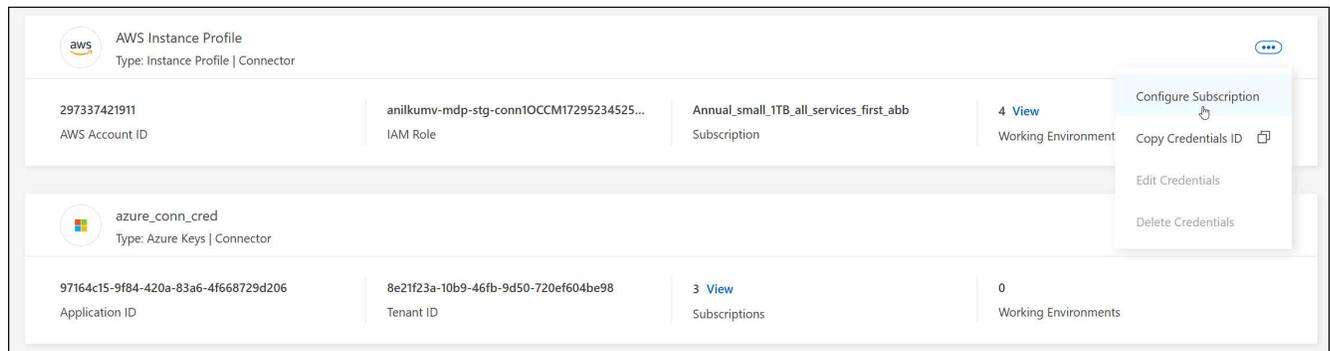
開始する前に

サブスクリプションを構成する前に、コンソール エージェントを作成する必要があります。"[コンソールエージェントの作成方法を学ぶ](#)"。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. *組織の資格情報*を選択します。
3. コンソール エージェントに関連付けられている資格情報のセットのアクション メニューを選択し、[サブスクリプションの構成] を選択します。

コンソール エージェントに関連付けられている資格情報を選択する必要があります。マーケットプレイスサブスクリプションを、NetApp Consoleに関連付けられている資格情報に関連付けることはできません。



4. 資格情報を既存のサブスクリプションに関連付けるには、ドロップダウン リストからサブスクリプションを選択し、[構成]を選択します。
5. 認証情報を新しいサブスクリプションに関連付けるには、[サブスクリプションの追加] > [続行]を選択し、AWS Marketplace の手順に従います。
 - a. *購入オプションを表示*を選択します。
 - b. *購読*を選択します。
 - c. *アカウントを設定*を選択します。

NetApp Consoleにリダイレクトされます。

- d. *サブスクリプションの割り当て*ページから:
 - このサブスクリプションに関連付けるコンソール組織またはアカウントを選択します。
 - 既存のサブスクリプションを置き換える フィールドで、1つの組織またはアカウントの既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに自動的に置き換えるかどうかを選択します。

コンソールは、組織またはアカウント内のすべての資格情報の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに置き換えます。資格情報のセットがサブスクリプションに関連付けられたことがない場合、この新しいサブスクリプションはそれらの資格情報に関連付けられません。

他のすべての組織またはアカウントについては、これらの手順を繰り返して、サブスクリプションを手動で関連付ける必要があります。

- *保存*を選択します。

既存のサブスクリプションを組織に関連付ける

AWS Marketplace からサブスクライブする場合、プロセスの最後のステップは、サブスクリプションを組織に関連付けることです。この手順を完了しなかった場合、組織でサブスクリプションを使用することはできません。

- ["コンソールの展開モードについて学ぶ"](#)
- ["コンソールのIDとアクセス管理について学ぶ"](#)

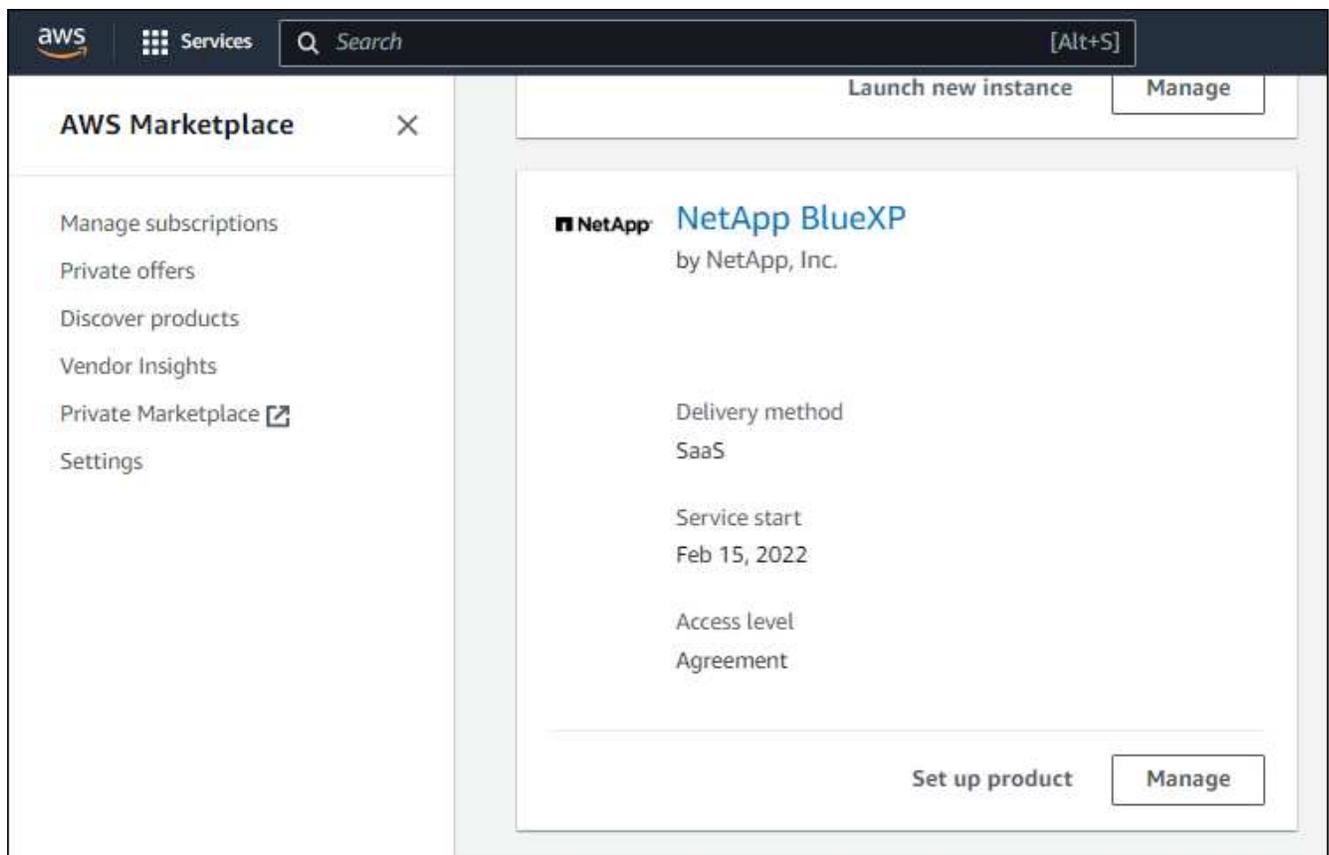
AWS Marketplace からNetApp Intelligent Servicesにサブスクライブしたが、サブスクリプションをアカウントに関連付ける手順を忘れた場合は、以下の手順に従ってください。

手順

1. サブスクリプションをコンソール組織に関連付けていないことを確認します。
 - a. ナビゲーションメニューから、*管理 > Licenses and subscriptions*を選択します。
 - b. *サブスクリプション*を選択します。
 - c. サブスクリプションが表示されていないことを確認します。

現在表示している組織またはアカウントに関連付けられているサブスクリプションのみが表示されます。サブスクリプションが表示されない場合は、次の手順に進みます。

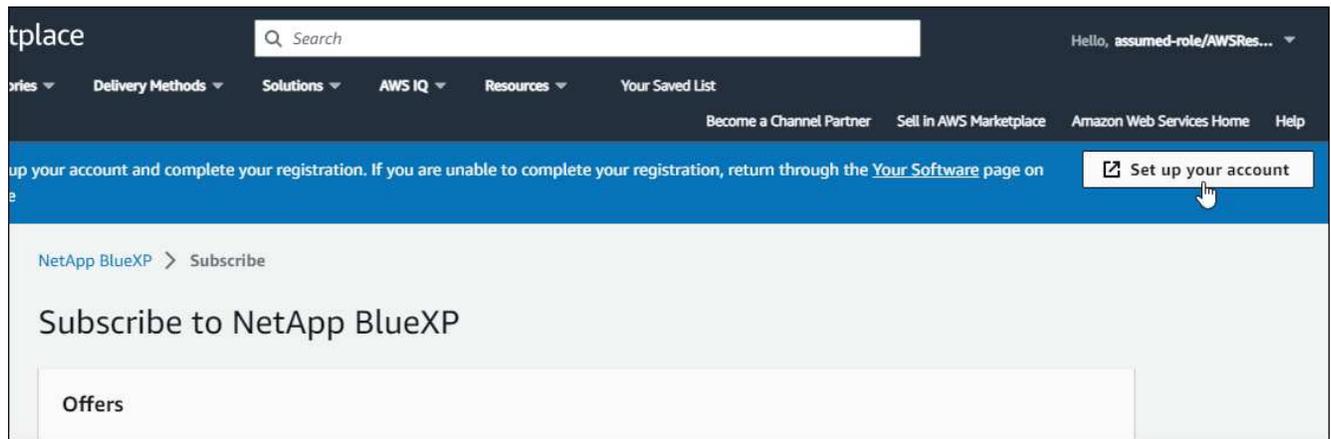
2. AWS コンソールにログインし、*AWS Marketplace サブスクリプション*に移動します。
3. サブスクリプションを見つけます。



4. *製品のセットアップ*を選択します。

サブスクリプション オファー ページは、新しいブラウザ タブまたはウィンドウに読み込まれます。

5. *アカウントを設定*を選択します。



netapp.com のサブスクリプションの割り当て ページが新しいブラウザ タブまたはウィンドウに読み込まれます。

最初にコンソールにログインするように求められる場合があります。

6. *サブスクリプションの割り当て*ページから:

- このサブスクリプションを関連付けるコンソール組織またはアカウントを選択します。
- 既存のサブスクリプションを置き換える フィールドで、1つの組織またはアカウントの既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに自動的に置き換えるかどうかを選択します。

コンソールは、組織またはアカウント内のすべての資格情報の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに置き換えます。資格情報のセットがサブスクリプションに関連付けられたことがない場合、この新しいサブスクリプションはそれらの資格情報に関連付けられません。

他のすべての組織またはアカウントについては、これらの手順を繰り返して、サブスクリプションを手動で関連付ける必要があります。

Subscription Assignment ×

✓ Your subscription to BlueXP / Cloud Volumes ONTAP from the AWS Marketplace was created successfully.

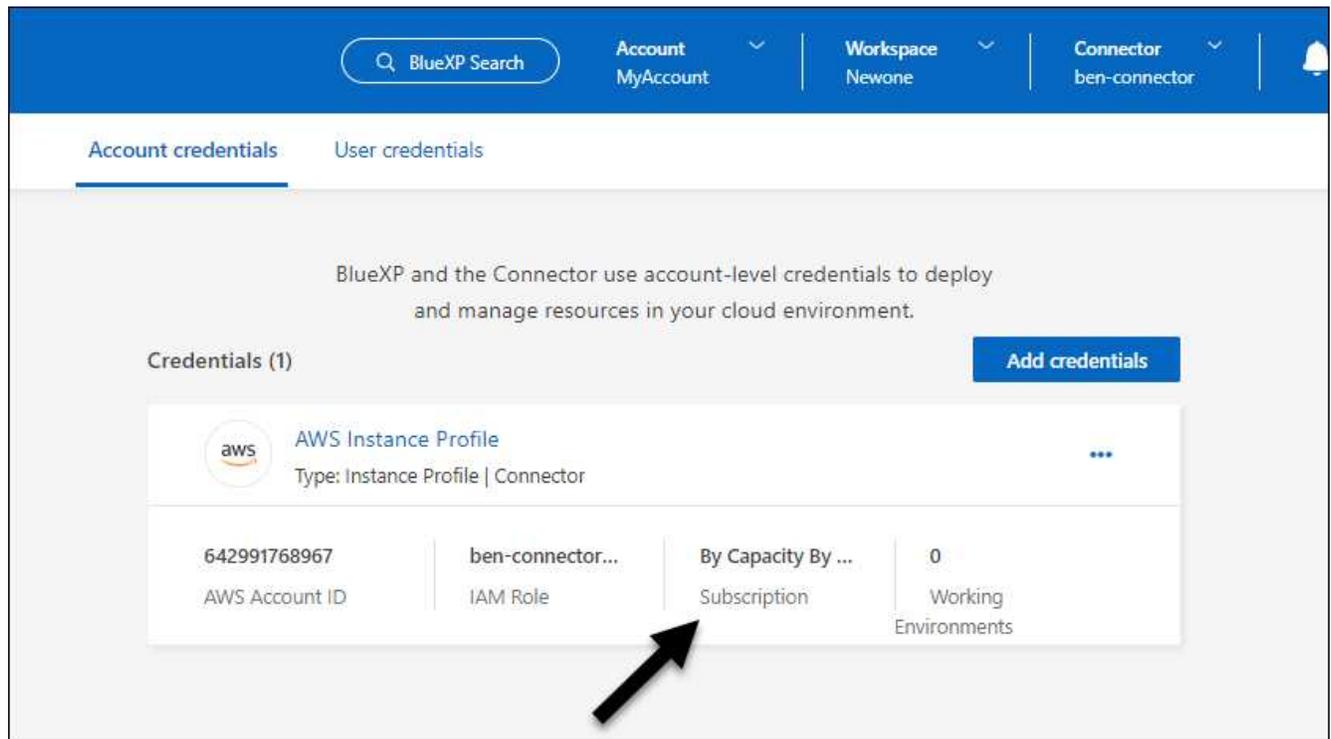
Subscription name i

Select the NetApp accounts that you'd like to associate this subscription with. i
You can automatically replace the existing subscription for one account with this new subscription.

NetApp account	Replace existing subscription
<input checked="" type="checkbox"/> cloudTiering_undefined	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> CS-HhewH	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/> benAccount	<input checked="" type="checkbox"/>

7. サブスクリプションが組織に関連付けられていることを確認します。
 - a. ナビゲーションメニューから、*管理 > ライセンスとサブスクリプション*を選択します。
 - b. *サブスクリプション*を選択します。
 - c. サブスクリプションが表示されていることを確認します。
8. サブスクリプションが AWS 認証情報に関連付けられていることを確認します。
 - a. *管理 > 資格情報*を選択します。
 - b. *組織の認証情報*ページで、サブスクリプションが AWS 認証情報に関連付けられていることを確認します。

ここに例があります。



資格情報を編集する

アカウントの種類 (AWS キーまたはロールの引き受け) を変更したり、名前を編集したり、認証情報自体 (キーまたはロール ARN) を更新したりして、AWS 認証情報を編集します。



コンソールエージェントインスタンスまたはAmazon FSx for ONTAPインスタンスに関連付けられているインスタンスプロファイルの認証情報を編集することはできません。FSx for ONTAPインスタンスの資格情報の名前のみを変更できます。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. *組織の資格情報*ページで、資格情報セットのアクションメニューを選択し、*資格情報の編集*を選択します。
3. 必要な変更を加えて、[適用] を選択します。

資格情報を削除する

資格情報セットが不要になった場合は、削除できます。システムに関連付けられていない資格情報のみを削除できます。



コンソール エージェントに関連付けられているインスタンス プロファイルの資格情報を削除することはできません。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. 組織の資格情報 または アカウントの資格情報 ページで、資格情報セットのアクションメニューを選択し、資格情報の削除 を選択します。

3. *削除*を選択して確認します。

Azure

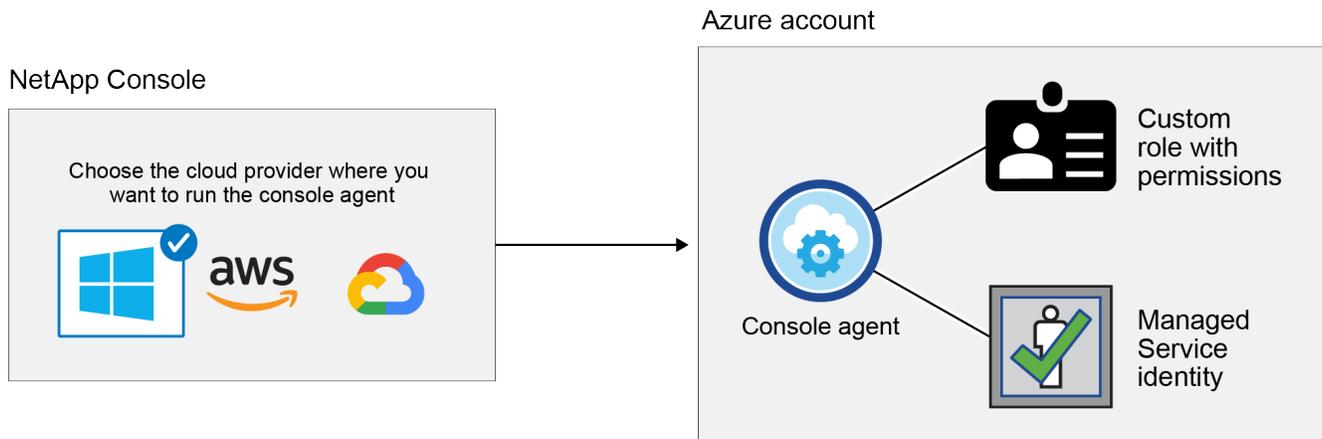
NetApp Consoleの Azure 資格情報と権限について学習します

NetApp ConsoleがAzure 資格情報を使用してユーザーに代わってアクションを実行する方法と、それらの資格情報がマーケットプレイスのサブスクリプションと関連付けられる方法について説明します。これらの詳細を理解しておく、1つ以上の Azure サブスクリプションの資格情報を管理するときに役立ちます。たとえば、コンソールに追加の Azure 資格情報を追加するタイミングを知りたい場合があります。

初期の Azure 資格情報

コンソールからコンソール エージェントを展開する場合は、コンソール エージェント仮想マシンを展開する権限を持つ Azure アカウントまたはサービス プリンシパルを使用する必要があります。必要な権限は、"[Azure のエージェント展開ポリシー](#)"。

コンソールがAzureにコンソールエージェント仮想マシンを展開すると、"[システム割り当てマネージドID](#)"仮想マシン上でカスタム ロールを作成し、それを仮想マシンに割り当てます。このロールは、その Azure サブスクリプション内のリソースとプロセスを管理するために必要な権限をコンソールに提供します。"[コンソールが権限をどのように使用するかを確認します](#)"。



Cloud Volumes ONTAP用に新しいシステムを作成する場合、コンソールはデフォルトで次の Azure 資格情報を選択します。

Details & Credentials			
Managed Service Ide...	OCCM QA1	ⓘ No subscription is associated	Edit Credentials
Credential Name	Azure Subscription	Marketplace Subscription	

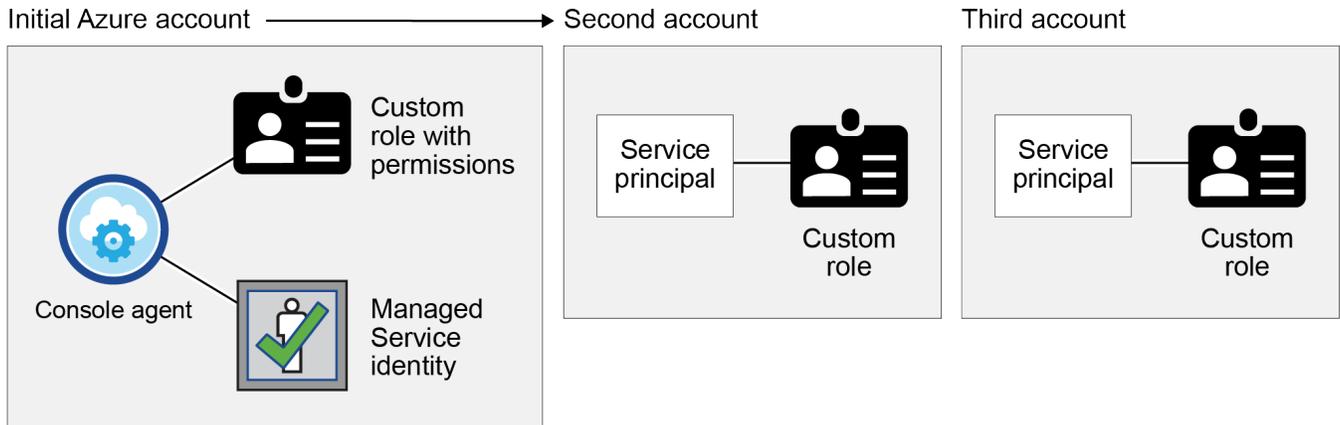
初期の Azure 資格情報を使用してすべてのCloud Volumes ONTAPシステムを展開することも、追加の資格情報を追加することもできます。

マネージド ID 用の追加の Azure サブスクリプション

コンソール エージェント VM に割り当てられたシステム割り当てマネージド ID は、コンソール エージェントを起動したサブスクリプションに関連付けられています。別のAzureサブスクリプションを選択する場合は、"マネージドIDをこれらのサブスクリプションに関連付ける"。

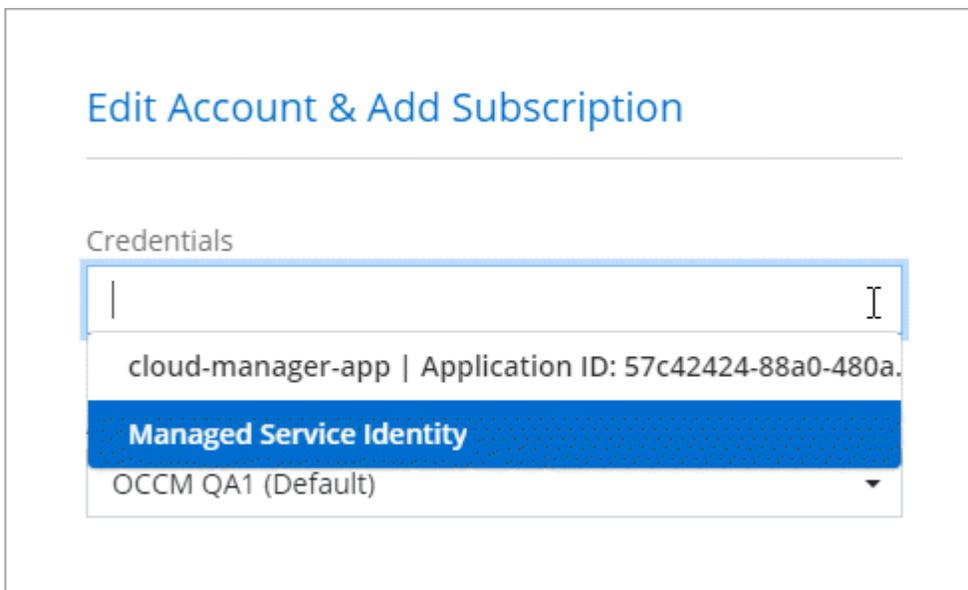
追加のAzure資格情報

コンソールで異なるAzure資格情報を使用する場合は、必要な権限を付与する必要があります。"Microsoft Entra ID でサービス プリンシパルを作成して設定する" Azure アカウントごとに。次の図は、それぞれサービス プリンシパルと、アクセス許可を提供するカスタム ロールが設定された 2 つの追加アカウントを示しています。



そうすると"コンソールにアカウント資格情報を追加する"AD サービス プリンシパルに関する詳細を提供します。

たとえば、新しいCloud Volumes ONTAPシステムを作成するときに、資格情報を切り替えることができます。



資格情報とマーケットプレースのサブスクリプション

コンソール エージェントに追加する資格情報は、Azure Marketplace サブスクリプションに関連付ける必要があります。これにより、Cloud Volumes ONTAPの料金を時間単位 (PAYGO) またはNetAppデータ サービス、あるいは年間契約で支払うことができます。

["Azureサブスクリプションを関連付ける方法を学ぶ"](#)。

Azure 資格情報とマーケットプレース サブスクリプションについては、次の点に注意してください。

- Azure 資格情報のセットに関連付けることができるのは、1 つの Azure Marketplace サブスクリプションのみです。
- 既存のマーケットプレースサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えることができます

FAQ

次の質問は、資格情報とサブスクリプションに関連しています。

Cloud Volumes ONTAPシステムの **Azure Marketplace** サブスクリプションを変更できますか？

はい、できます。Azure 資格情報のセットに関連付けられている Azure Marketplace サブスクリプションを変更すると、既存および新しいすべてのCloud Volumes ONTAPシステムに新しいサブスクリプションに対して課金されます。

["Azureサブスクリプションを関連付ける方法を学ぶ"](#)。

それぞれ異なるマーケットプレース サブスクリプションを持つ複数の **Azure** 資格情報を追加できますか？

同じ Azure サブスクリプションに属するすべての Azure 資格情報は、同じ Azure Marketplace サブスクリプションに関連付けられます。

異なる Azure サブスクリプションに属する複数の Azure 資格情報がある場合、それらの資格情報は、同じ Azure Marketplace サブスクリプションまたは異なるマーケットプレース サブスクリプションに関連付けることができます。

既存の**Cloud Volumes ONTAP**システムを別の **Azure** サブスクリプションに移動できますか？

いいえ、Cloud Volumes ONTAPシステムに関連付けられている Azure リソースを別の Azure サブスクリプションに移動することはできません。

マーケットプレースの展開とオンプレミスの展開では資格情報はどのように機能しますか？

上記のセクションでは、コンソールからのコンソール エージェントの推奨展開方法について説明しています。Azure Marketplace から Azure にコンソール エージェントをデプロイし、独自の Linux ホストにコンソール エージェント ソフトウェアをインストールすることもできます。

Marketplace を使用する場合は、コンソール エージェント VM とシステム割り当てマネージド ID にカスタムロールを割り当てることでアクセス許可を付与することも、Microsoft Entra サービス プリンシパルを使用することもできます。

オンプレミス展開の場合、コンソール エージェントのマネージド ID を設定することはできませんが、サービス プリンシパルを使用してアクセス許可を付与することはできます。

権限の設定方法については、次のページを参照してください。

- 標準モード
 - ["Azure Marketplace のデプロイの権限を設定する"](#)
 - ["オンプレミス展開の権限を設定する"](#)
- 制限モード
 - ["制限モードの権限を設定する"](#)
- ["プライベートモードの権限を設定する"](#)

NetApp Consoleの Azure 資格情報とマーケットプレイス サブスクリプションを管理する

Azure 資格情報を追加および管理して、NetApp ConsoleがAzure サブスクリプション内のクラウド リソースを展開および管理するために必要な権限を持つようにします。複数の Azure Marketplace サブスクリプションを管理する場合は、[資格情報] ページから各サブスクリプションを異なる Azure 資格情報に割り当てることができます。

概要

コンソールで追加の Azure サブスクリプションと資格情報を追加するには、2 つの方法があります。

1. 追加の Azure サブスクリプションを Azure マネージド ID に関連付けます。
2. 異なる Azure 資格情報を使用して Cloud Volumes ONTAPをデプロイするには、サービス プリンシパルを使用して Azure 権限を付与し、その資格情報をコンソールに追加します。

追加の Azure サブスクリプションをマネージド ID に関連付ける

コンソールを使用すると、Cloud Volumes ONTAPをデプロイする Azure 資格情報と Azure サブスクリプションを選択できます。マネージドIDプロファイルに別のAzureサブスクリプションを選択することはできません。"[マネージドID](#)"それらのサブスクリプションで。

タスク概要

マネージドIDとは"[最初のAzureアカウント](#)"コンソールからコンソール エージェントを展開する場合。コンソール エージェントを展開すると、コンソールはコンソール エージェント仮想マシンにコンソール オペレーター ロールを割り当てます。

手順

1. Azure ポータルにログインします。
2. サブスクリプション サービスを開き、Cloud Volumes ONTAPをデプロイするサブスクリプションを選択します。
3. アクセス制御 (IAM) を選択します。
 - a. 追加 > ロールの割り当ての追加 を選択し、権限を追加します。
 - コンソールオペレーター ロールを選択します。



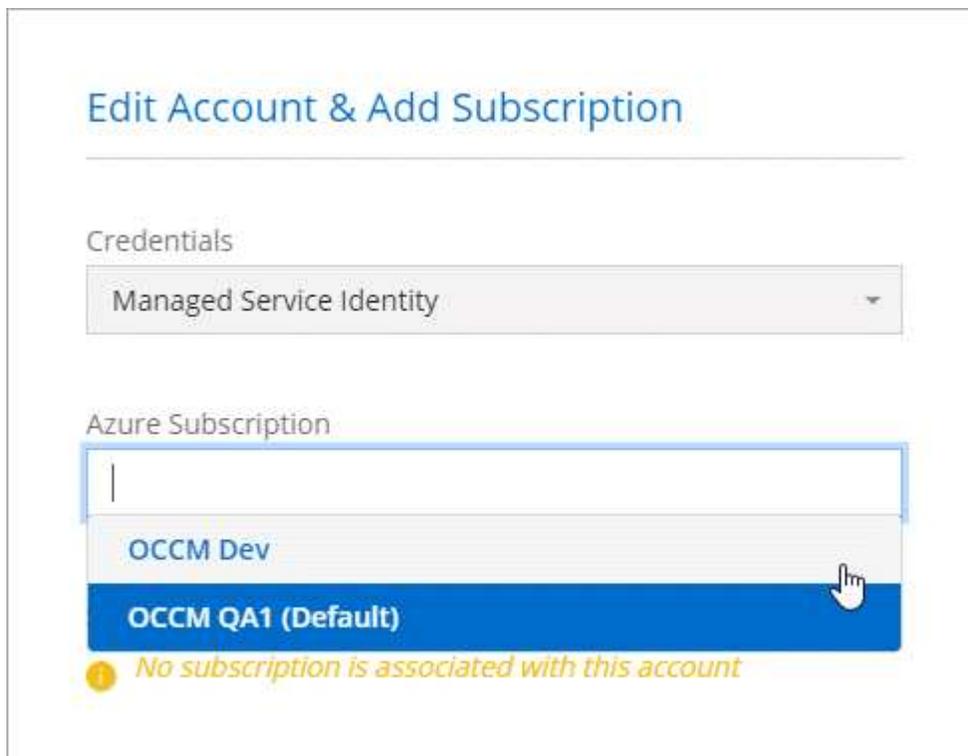
コンソール オペレータは、コンソール エージェント ポリシーで提供されるデフォルト名です。ロールに別の名前を選択した場合は、代わりにその名前を選択します。

- *仮想マシン*へのアクセスを割り当てます。
- コンソール エージェント仮想マシンが作成されたサブスクリプションを選択します。
- コンソール エージェント仮想マシンを選択します。
- *保存*を選択します。

4. 追加のサブスクリプションについては、これらの手順を繰り返します。

結果

新しいシステムを作成するときに、マネージド ID プロファイルに対して複数の Azure サブスクリプションから選択できるようになりました。



NetApp Consoleに Azure 資格情報を追加する

コンソールからコンソール エージェントを展開すると、コンソールは必要なアクセス許可を持つ仮想マシン上でシステム割り当てのマネージド ID を有効にします。Cloud Volumes ONTAPの新しいシステムを作成するときに、コンソールはデフォルトでこれらの Azure 資格情報を選択します。



既存のシステムにコンソール エージェント ソフトウェアを手動でインストールした場合、資格情報の初期セットは追加されません。["Azure の資格情報と権限について学習する"](#)。

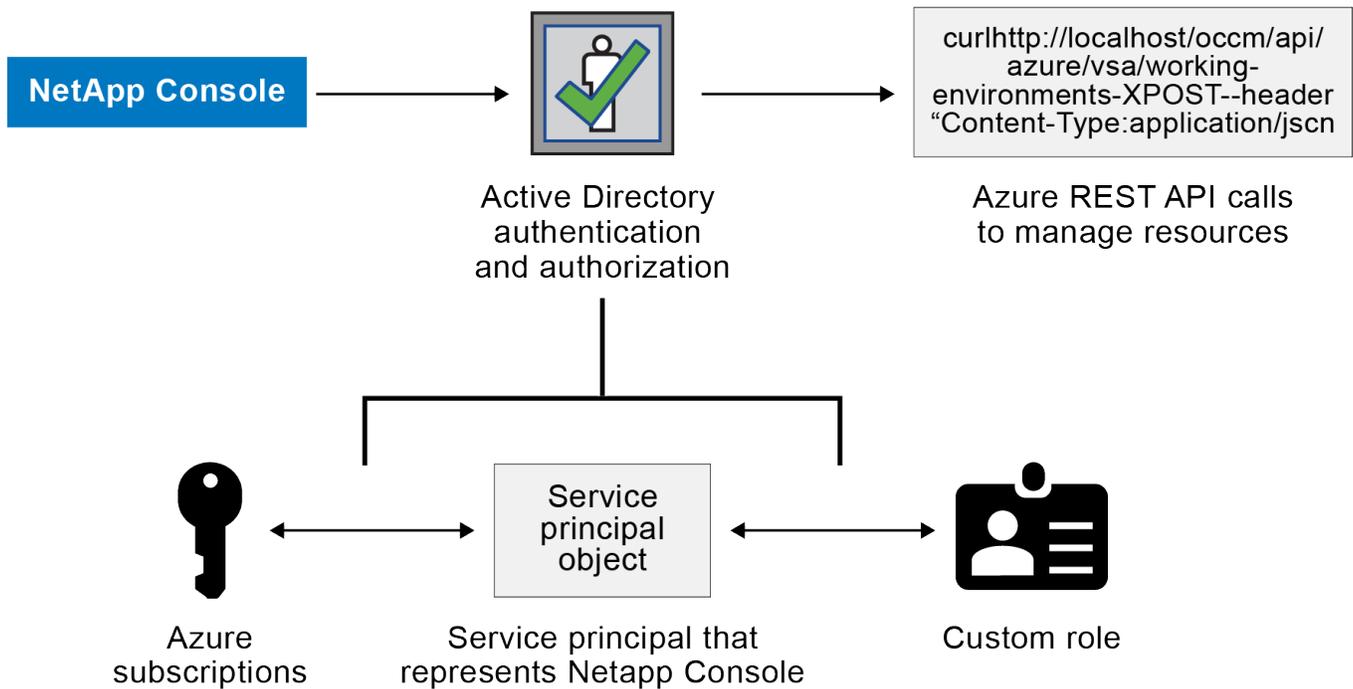
異なる Azure 資格情報を使用してCloud Volumes ONTAPをデプロイする場合は、Azure アカウントごとに Microsoft Entra ID でサービス プリンシパルを作成して設定し、必要な権限を付与する必要があります。その後、新しい資格情報をコンソールに追加できます。

サービス プリンシパルを使用して **Azure** 権限を付与する

コンソールには、Azure でアクションを実行するための権限が必要です。Microsoft Entra ID でサービス プリンシパルを作成して設定し、コンソールに必要な Azure 資格情報を取得することで、Azure アカウントに必要な権限を付与できます。

タスク概要

次の図は、コンソールが Azure で操作を実行するための権限を取得する方法を示しています。1 つ以上の Azure サブスクリプションに関連付けられたサービス プリンシパル オブジェクトは、Microsoft Entra ID のコンソールを表し、必要なアクセス許可を許可するカスタム ロールに割り当てられます。



手順

1. [Microsoft Entra アプリケーションを作成する](#)。
2. [\[アプリケーションをロールに割り当てる\]](#)。
3. [Windows Azure サービス管理 API 権限を追加する](#)。
4. [アプリケーションIDとディレクトリIDを取得する](#)。
5. [\[クライアントシークレットを作成する\]](#)。

Microsoft Entra アプリケーションを作成する

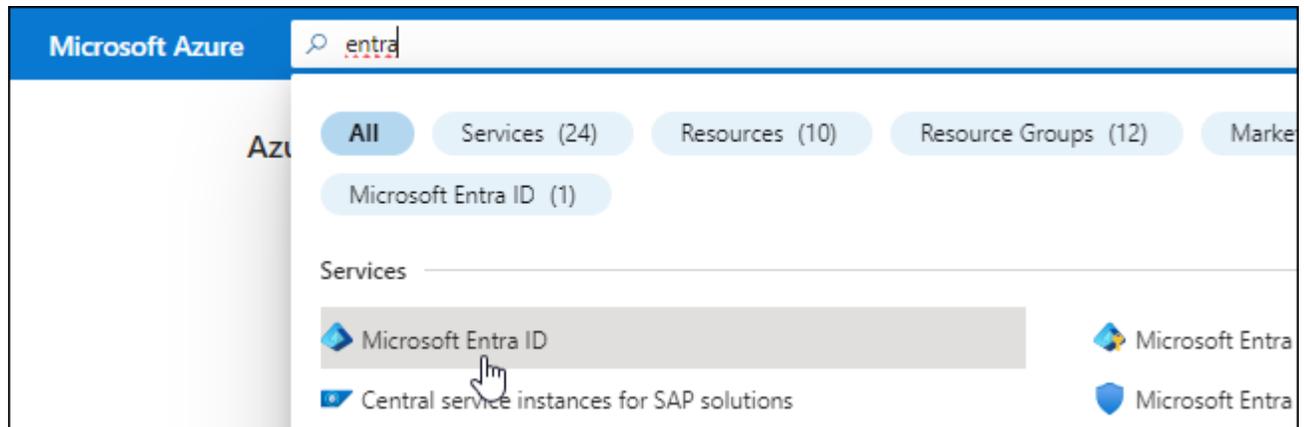
コンソールがロールベースのアクセス制御に使用できる Microsoft Entra アプリケーションとサービス プリンシパルを作成します。

手順

1. Azure で Active Directory アプリケーションを作成し、そのアプリケーションをロールに割り当てるためのアクセス許可があることを確認します。

詳細については、"[Microsoft Azure ドキュメント: 必要な権限](#)"

2. Azure ポータルから、**Microsoft Entra ID** サービスを開きます。



3. メニューで*アプリ登録*を選択します。

4. *新規登録*を選択します。

5. アプリケーションの詳細を指定します。

- 名前: アプリケーションの名前を入力します。
- アカウント タイプ: アカウント タイプを選択します (いずれのタイプもNetApp Consoleで使用できます)。
- リダイレクト **URI**: このフィールドは空白のままにすることができます。

6. *登録*を選択します。

AD アプリケーションとサービス プリンシパルを作成しました。

アプリケーションをロールに割り当てる

サービス プリンシパルを 1 つ以上の Azure サブスクリプションにバインドし、カスタムの「コンソール オペレーター」ロールを割り当てて、コンソールに Azure での権限を与える必要があります。

手順

1. カスタム ロールを作成します。

Azure ポータル、Azure PowerShell、Azure CLI、または REST API を使用して、Azure カスタム ロールを作成できます。次の手順は、Azure CLI を使用してロールを作成する方法を示しています。別の方法をご希望の場合は、"[Azureドキュメント](#)"

- a. の内容をコピーします"[コンソールエージェントのカスタムロール権限](#)"JSON ファイルに保存します。
- b. 割り当て可能なスコープに Azure サブスクリプション ID を追加して、JSON ファイルを変更します。

ユーザーがCloud Volumes ONTAPシステムを作成する各 Azure サブスクリプションの ID を追加する必要があります。

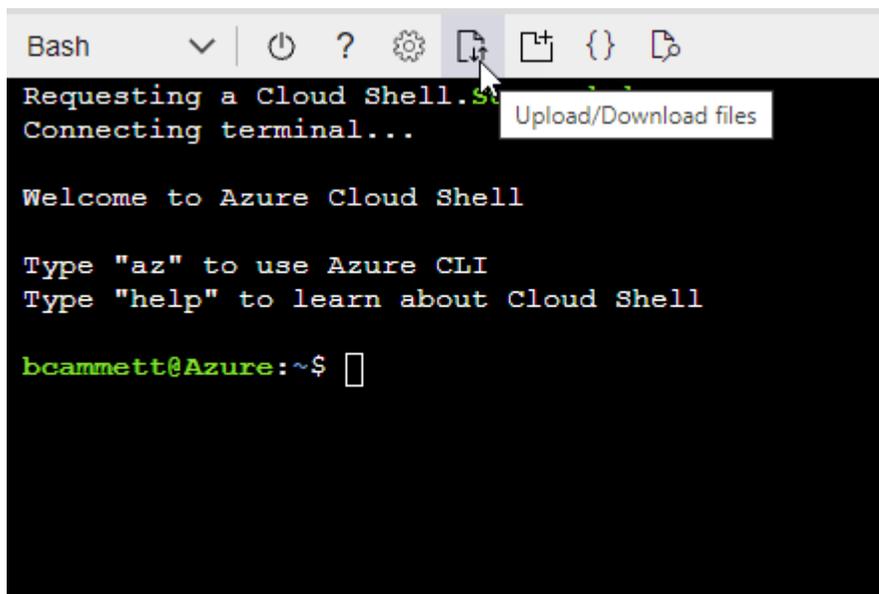
例

```
"AssignableScopes": [  
  "/subscriptions/d333af45-0d07-4154-943d-c25fbzzzzzzz",  
  "/subscriptions/54b91999-b3e6-4599-908e-416e0zzzzzzz",  
  "/subscriptions/398e471c-3b42-4ae7-9b59-ce5bbzzzzzzz"  
]
```

- c. JSON ファイルを使用して、Azure でカスタム ロールを作成します。

次の手順では、Azure Cloud Shell で Bash を使用してロールを作成する方法について説明します。

- 始める "Azure クラウド シェル" Bash 環境を選択します。
- JSON ファイルをアップロードします。



- Azure CLI を使用してカスタム ロールを作成します。

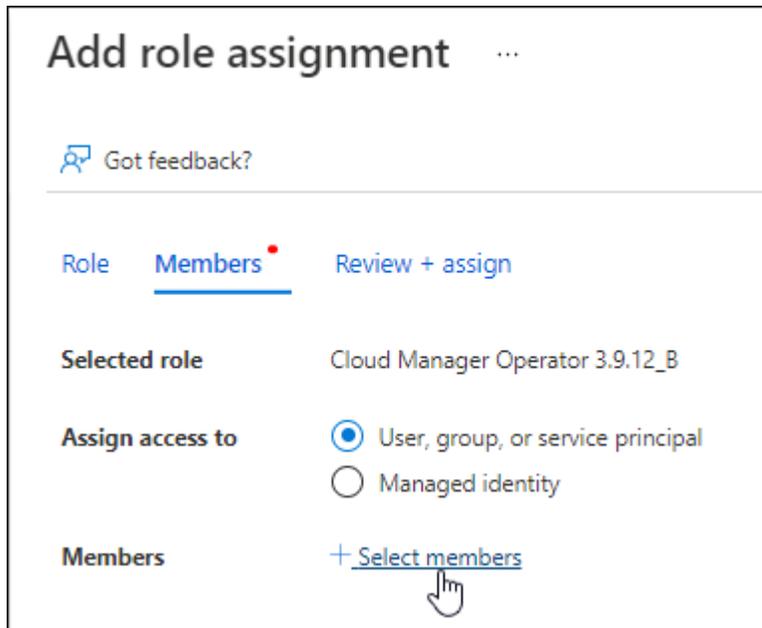
```
az role definition create --role-definition agent_Policy.json
```

これで、コンソール エージェント仮想マシンに割り当てることができる、コンソール オペレーターと呼ばれるカスタム ロールが作成されます。

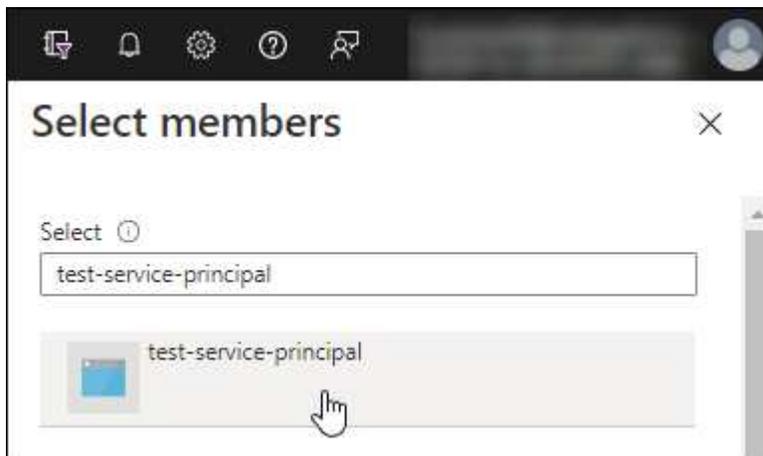
2. アプリケーションをロールに割り当てます。

- a. Azure ポータルから、サブスクリプション サービスを開きます。
- b. サブスクリプションを選択します。
- c. アクセス制御 (IAM) > 追加 > ロール割り当ての追加 を選択します。
- d. *役割*タブで、*コンソールオペレーター*役割を選択し、*次へ*を選択します。
- e. *メンバー*タブで、次の手順を実行します。

- *ユーザー、グループ、またはサービス プリンシパル*を選択したままにします。
- *メンバーを選択*を選択します。



- アプリケーションの名前を検索します。
- 次に例を示します。



- アプリケーションを選択し、[選択] を選択します。
 - *次へ*を選択します。
- f. *レビュー + 割り当て*を選択します。

これで、サービス プリンシパルに、コンソール エージェントをデプロイするために必要な Azure アクセス許可が付与されました。

複数の Azure サブスクリプションから Cloud Volumes ONTAP をデプロイする場合は、サービス プリンシパルを各サブスクリプションにバインドする必要があります。 NetApp Console では、 Cloud Volumes ONTAP をデプロイするときに使用するサブスクリプションを選択できます。

Windows Azure サービス管理 API 権限を追加する

サービス プリンシパルに「Windows Azure サービス管理 API」権限を割り当てる必要があります。

手順

1. **Microsoft Entra ID** サービスで、アプリの登録 を選択し、アプリケーションを選択します。
2. **API 権限 > 権限の追加** を選択します。
3. **Microsoft API** の下で、**Azure Service Management** を選択します。

Request API permissions

Select an API

Microsoft APIs APIs my organization uses My APIs

Commonly used Microsoft APIs

Microsoft Graph Take advantage of the tremendous amount of data in Office 365, Enterprise Mobility + Security, and Windows 10. Access Azure AD, Excel, Intune, Outlook/Exchange, OneDrive, OneNote, SharePoint, Planner, and more through a single endpoint.		
Azure Batch Schedule large-scale parallel and HPC applications in the cloud	Azure Data Catalog Programmatic access to Data Catalog resources to register, annotate and search data assets	Azure Data Explorer Perform ad-hoc queries on terabytes of data to build near real-time and complex analytics solutions
Azure Data Lake Access to storage and compute for big data analytic scenarios	Azure DevOps Integrate with Azure DevOps and Azure DevOps server	Azure Import/Export Programmatic control of import/export jobs
Azure Key Vault Manage your key vaults as well as the keys, secrets, and certificates within your Key Vaults	Azure Rights Management Services Allow validated users to read and write protected content	Azure Service Management Programmatic access to much of the functionality available through the Azure portal
Azure Storage Secure, massively scalable object and data lake storage for unstructured and semi-structured data	Customer Insights Create profile and interaction models for your products	Data Export Service for Microsoft Dynamics 365 Export data from Microsoft Dynamics CRM organization to an external destination

4. 組織ユーザーとして **Azure** サービス管理にアクセスする を選択し、権限の追加 を選択します。

Request API permissions

< All APIs

 Azure Service Management
<https://management.azure.com/> [Docs](#)

What type of permissions does your application require?

Delegated permissions

Your application needs to access the API as the signed-in user.

Application permissions

Your application runs as a background service or daemon without a signed-in user.

Select permissions

[expand all](#)

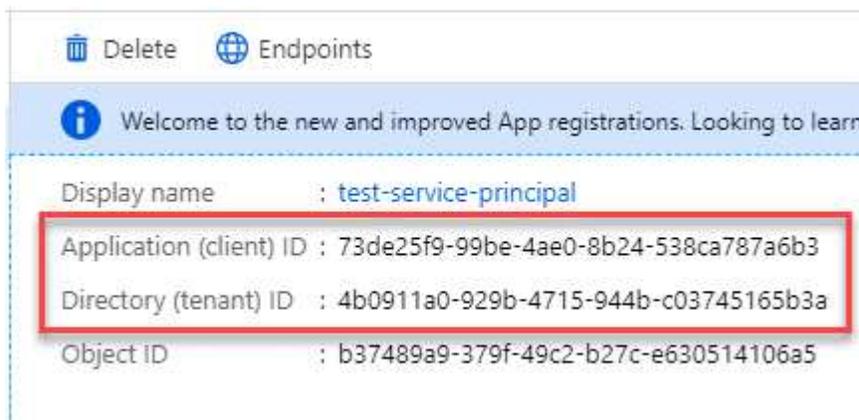
PERMISSION	ADMIN CONSENT REQUIRED
<input checked="" type="checkbox"/> user_impersonation Access Azure Service Management as organization users (preview) ⓘ	-

アプリケーションIDとディレクトリIDを取得する

Azure アカウントをコンソールに追加するときは、アプリケーションのアプリケーション (クライアント) ID とディレクトリ (テナント) ID を指定する必要があります。コンソールは ID を使用してプログラムでサインインします。

手順

1. **Microsoft Entra ID** サービスで、アプリの登録 を選択し、アプリケーションを選択します。
2. アプリケーション (クライアント) ID と ディレクトリ (テナント) ID をコピーします。



Azure アカウントをコンソールに追加するときは、アプリケーションのアプリケーション (クライアント) ID とディレクトリ (テナント) ID を指定する必要があります。コンソールは ID を使用してプログラムでサインインします。

クライアントシークレットを作成する

クライアント シークレットを作成し、その値をコンソールに提供して、Microsoft Entra ID による認証を行います。

手順

1. **Microsoft Entra ID** サービスを開きます。
2. *アプリ登録*を選択し、アプリケーションを選択します。
3. *証明書とシークレット > 新しいクライアント シークレット*を選択します。
4. シークレットの説明と期間を指定します。
5. *追加*を選択します。
6. クライアント シークレットの値をコピーします。

Client secrets

A secret string that the application uses to prove its identity when requesting a token. Also can be referred to as application password.

DESCRIPTION	EXPIRES	VALUE	Copy to clipboard
test secret	8/16/2020	*sZ1jSe2By:D*-ZR0V4NLfdAcY7:+0vA	

結果

これでサービス プリンシパルが設定され、アプリケーション (クライアント) ID、ディレクトリ (テナント) ID、およびクライアント シークレットの値がコピーされているはずです。Azure アカウントを追加するとき、コンソールにこの情報を入力する必要があります。

コンソールに資格情報を追加する

Azure アカウントに必要な権限を付与したら、そのアカウントの資格情報をコンソールに追加できます。この手順を完了すると、さまざまな Azure 資格情報を使用して Cloud Volumes ONTAP を起動できるようになります。

開始する前に

クラウド プロバイダーでこれらの資格情報を作成したばかりの場合は、使用できるようになるまでに数分かかることがあります。資格情報をコンソールに追加する前に、数分お待ちください。

開始する前に

コンソール設定を変更する前に、コンソール エージェントを作成する必要があります。"[コンソールエージェントの作成方法を学ぶ](#)"。

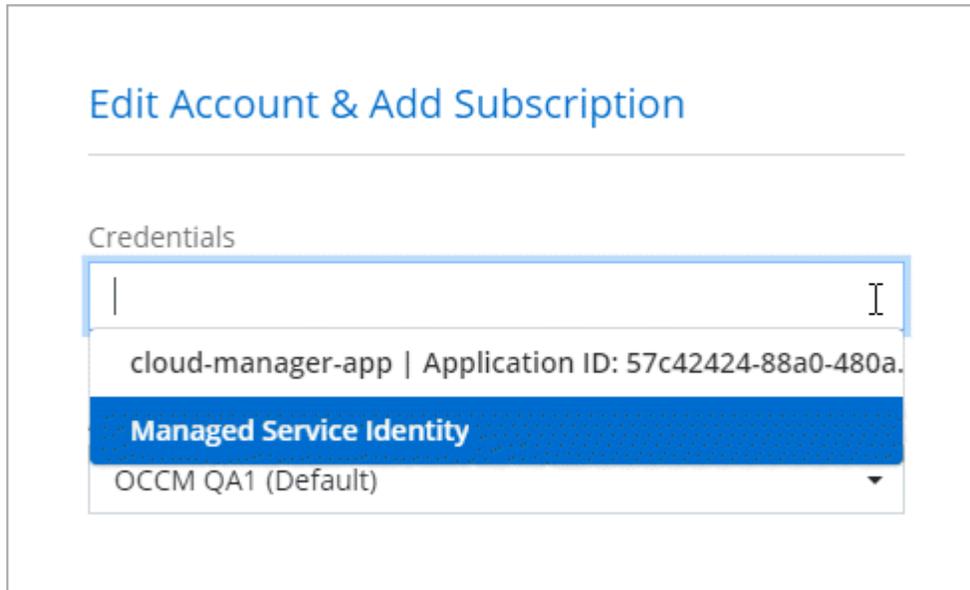
手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. *資格情報の追加*を選択し、ウィザードの手順に従います。
 - a. 資格情報の場所: **Microsoft Azure** > エージェント を選択します。
 - b. 資格情報の定義: 必要な権限を付与する Microsoft Entra サービス プリンシパルに関する情報を入力します。
 - アプリケーション (クライアント) ID
 - ディレクトリ (テナント) ID

- クライアントシークレット
- c. マーケットプレイス サブスクリプション: 今すぐサブスクライブするか、既存のサブスクリプションを選択して、マーケットプレイス サブスクリプションをこれらの資格情報に関連付けます。
- d. 確認: 新しい資格情報の詳細を確認し、[追加] を選択します。

結果

詳細と資格情報ページから別の資格情報セットに切り替えることができます "[コンソールにシステムを追加するとき](#)"



既存の資格情報を管理する

Marketplace サブスクリプションを関連付けたり、資格情報を編集したり、削除したりすることで、コンソールに既に追加した Azure 資格情報を管理します。

Azure Marketplace サブスクリプションを資格情報に関連付ける

Azure 資格情報をコンソールに追加したら、Azure Marketplace サブスクリプションをそれらの資格情報に関連付けることができます。サブスクリプションを使用すると、従量課金制のCloud Volumes ONTAPシステムを作成し、NetAppデータ サービスにアクセスできます。

コンソールに資格情報を追加した後に、Azure Marketplace サブスクリプションを関連付けるシナリオは 2 つあります。

- 資格情報をコンソールに最初に追加したときに、サブスクリプションを関連付けませんでした。
- Azure 資格情報に関連付けられている Azure Marketplace サブスクリプションを変更します。

現在のマーケットプレイス サブスクリプションを置き換えると、既存および新しいCloud Volumes ONTAPシステム用に更新されます。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。

2. *組織の資格情報*を選択します。
3. コンソール エージェントに関連付けられている資格情報のセットのアクション メニューを選択し、[サブスクリプションの構成] を選択します。

コンソール エージェントに関連付けられている資格情報を選択する必要があります。マーケットプレイス サブスクリプションを、NetApp Consoleに関連付けられている資格情報に関連付けることはできません。

4. 資格情報を既存のサブスクリプションに関連付けるには、ドロップダウン リストからサブスクリプションを選択し、[構成] を選択します。
5. 資格情報を新しいサブスクリプションに関連付けるには、[サブスクリプションの追加] > [続行] を選択し、Azure Marketplace の手順に従います。
 - a. プロンプトが表示されたら、Azure アカウントにログインします。
 - b. *購読*を選択します。
 - c. フォームに記入し、「購読」を選択します。
 - d. サブスクリプションプロセスが完了したら、「今すぐアカウントを構成」を選択します。

NetApp Consoleにリダイレクトされます。

- e. *サブスクリプションの割り当て*ページから:

- このサブスクリプションに関連付けるコンソール組織またはアカウントを選択します。
- 既存のサブスクリプションを置き換える フィールドで、1 つの組織またはアカウントの既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに自動的に置き換えるかどうかを選択します。

コンソールは、組織またはアカウント内のすべての資格情報の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに置き換えます。資格情報のセットがサブスクリプションに関連付けられたことがない場合、この新しいサブスクリプションはそれらの資格情報に関連付けられません。

他のすべての組織またはアカウントについては、これらの手順を繰り返して、サブスクリプションを手動で関連付ける必要があります。

- *保存*を選択します。

資格情報を編集する

コンソールで Azure 資格情報を編集します。たとえば、サービス プリンシパル アプリケーションに新しいシークレットが作成された場合は、クライアント シークレットを更新できます。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. *組織の資格情報*を選択します。
3. 資格情報セットのアクション メニューを選択し、[資格情報の編集] を選択します。
4. 必要な変更を加えて、[適用] を選択します。

資格情報を削除する

資格情報セットが不要になった場合は、削除できます。システムに関連付けられていない資格情報のみを削除できます。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. *組織の資格情報*を選択します。
3. *組織の資格情報*ページで、資格情報セットのアクションメニューを選択し、*資格情報の削除*を選択します。
4. *削除*を選択して確認します。

Google Cloud

Google Cloud プロジェクトと権限について学ぶ

NetApp ConsoleがGoogle Cloud 認証情報を使用してユーザーに代わってアクションを実行する方法と、それらの認証情報がマーケットプレイスのサブスクリプションとどのように関連付けられるかについて説明します。これらの詳細を理解しておく、1つ以上の Google Cloud プロジェクトの認証情報を管理するときに役立ちます。たとえば、コンソール エージェント VM に関連付けられているサービス アカウントについて知りたい場合があります。

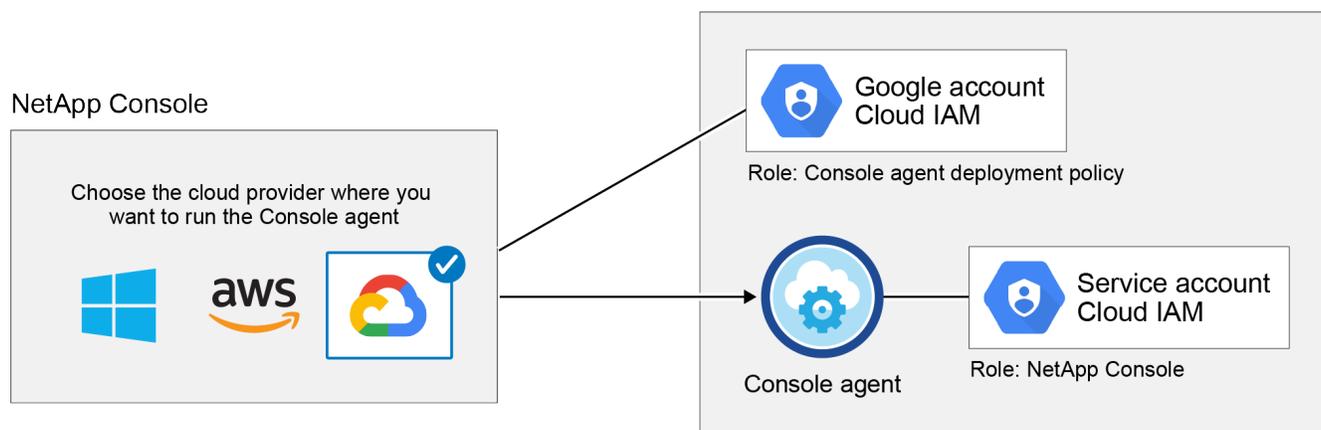
NetApp Consoleのプロジェクトと権限

コンソールを使用して Google Cloud プロジェクト内のリソースを管理する前に、まずコンソール エージェントをデプロイする必要があります。エージェントは、オンプレミスまたは別のクラウド プロバイダーで実行することはできません。

コンソール エージェントをコンソールから直接展開する前に、次の 2 セットの権限を設定する必要があります。

1. コンソールからコンソール エージェントを起動する権限を持つ Google アカウントを使用して、コンソール エージェントを展開する必要があります。
2. コンソールエージェントを展開する際には、"[サービスアカウント](#)"エージェントの場合、コンソールはサービス アカウントから権限を取得し、Cloud Volumes ONTAPシステムの作成と管理、NetAppバックアップとリカバリを使用したバックアップの管理などを行います。権限は、サービス アカウントにカスタムロールを添付することによって提供されます。

次の図は、上記の 1 および 2 で説明した許可要件を示しています。



権限の設定方法については、次のページを参照してください。

- ["標準モードの Google Cloud 権限を設定する"](#)
- ["制限モードの権限を設定する"](#)
- ["プライベートモードの権限を設定する"](#)

資格情報とマーケットプレイスのサブスクリプション

Google Cloud にコンソール エージェントをデプロイすると、コンソールは、コンソール エージェントが存在するプロジェクト内の Google Cloud サービス アカウントのデフォルトの認証情報セットを作成します。Cloud Volumes ONTAPおよびNetAppデータサービスの料金を支払うには、これらの認証情報を Google Cloud Marketplace サブスクリプションに関連付ける必要があります。

["Google Cloud Marketplace サブスクリプションに関連付ける方法を学びます"](#)。

Google Cloud の認証情報とマーケットプレイスのサブスクリプションについては、次の点に注意してください。

- コンソール エージェントに関連付けることができるのは、Google Cloud 認証情報の 1 セットのみです。
- 認証情報に関連付けることができるのは、Google Cloud Marketplace サブスクリプション 1 つだけです。
- 既存のマーケットプレイスサブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えることができます

Cloud Volumes ONTAPプロジェクト

Cloud Volumes ONTAP は、コンソール エージェントと同じプロジェクトに存在することも、別のプロジェクトに存在することもできます。Cloud Volumes ONTAP を別のプロジェクトにデプロイするには、まずそのプロジェクトにコンソール エージェントのサービス アカウントとロールを追加する必要があります。

- ["サービスアカウントの設定方法を学ぶ"](#)
- ["Google Cloud でCloud Volumes ONTAPをデプロイし、プロジェクトを選択する方法を学びます"](#)

NetApp Console の Google Cloud クレデンシャルとサブスクリプションを管理

NetApp Console エージェント VM インスタンスに関連付けられている Google Cloud 認

証情報を管理するには、マーケットプレイスのサブスクリプションを関連付け、サブスクリプション プロセスのトラブルシューティングを行います。これら両方のタスクにより、マーケットプレイスのサブスクリプションを使用してデータ サービスの料金を支払うことができます。

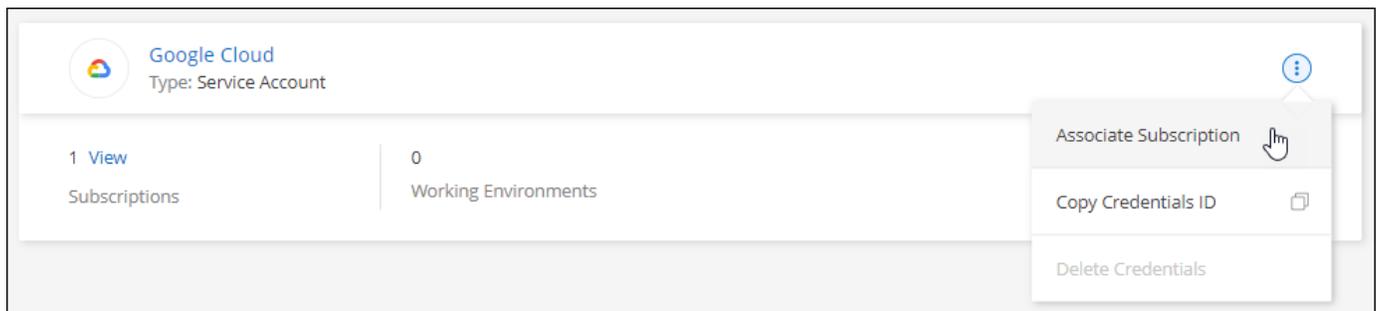
Marketplace サブスクリプションを Google Cloud クレデンシャルに関連付ける

Google Cloud にConsoleエージェントをデプロイすると、ConsoleはConsoleエージェントVMインスタンスに関連付けられたデフォルトの認証情報セットを作成します。これらの認証情報に関連付けられているGoogle Cloud Marketplaceサブスクリプションはいつでも変更できます。サブスクリプションでは、従量課金制Cloud Volumes ONTAPシステムを作成し、その他のデータサービスを使用できます。

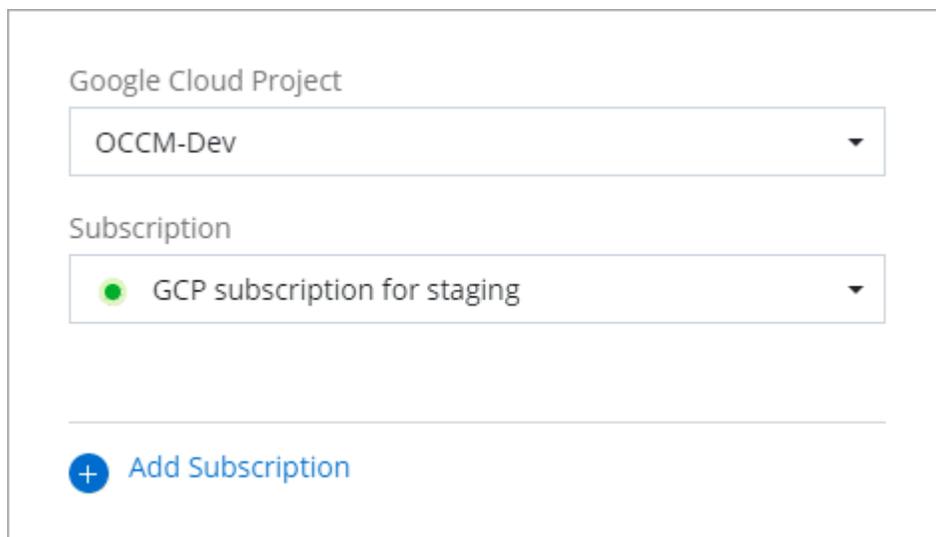
現在のマーケットプレイス サブスクリプションを新しいサブスクリプションに置き換えると、既存のCloud Volumes ONTAPシステムとすべての新しいシステムのマーケットプレイス サブスクリプションが変更されます。

手順

1. *管理 > 資格情報*を選択します。
2. *組織の資格情報*を選択します。
3. コンソール エージェントに関連付けられている資格情報のセットのアクション メニューを選択し、[サブスクリプションの構成] を選択します。



1. 選択した認証情報を使用して既存のサブスクリプションを構成するには、ドロップダウン リストから Google Cloud プロジェクトとサブスクリプションを選択し、[構成] を選択します。



2. まだサブスクリプションをお持ちでない場合は、[サブスクリプションを追加] > [続行] を選択し、Google Cloud Marketplace の手順に従います。



次の手順を完了する前に、Google Cloud アカウントの課金管理者権限とNetApp Consoleのログイン権限の両方があることを確認してください。

- a. リダイレクトされたら "[Google Cloud Marketplace のNetApp Intelligent Servicesページ](#)" 上部のナビゲーションメニューで正しいプロジェクトが選択されていることを確認します。

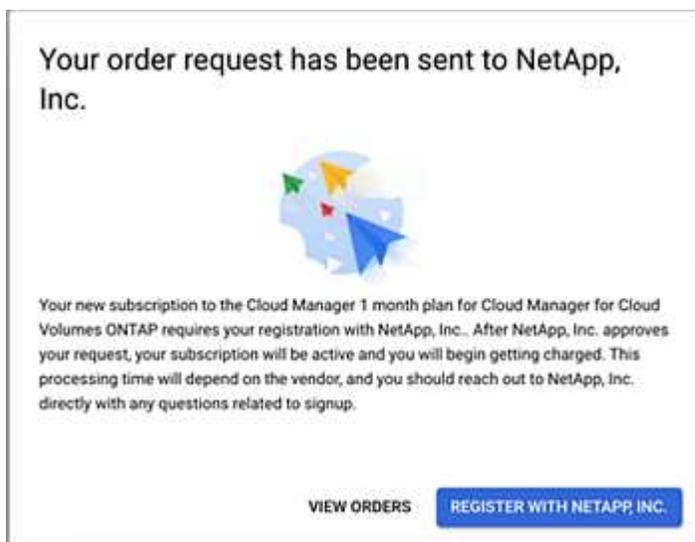
The screenshot shows the product page for NetApp Intelligent Services. At the top, there are navigation elements for Google Cloud and NetApp. Below that is a breadcrumb trail: Product details. The main content area features the NetApp logo, the product name "NetApp Intelligent Services", and the company name "NetApp, Inc." with a link. A description states: "Get best-in-class data protection and security for your workloads running on NetApp® ONTAP® storage." A blue "Subscribe" button is prominently displayed. Below the button is a navigation menu with tabs for Overview, Pricing, Documentation, Support, and Related Products. The "Overview" tab is currently selected and highlighted. The content under the "Overview" tab begins with the text: "NetApp offers a comprehensive suite of intelligent services for your ONTAP systems. They proactively protect critical workloads against evolving cyberthreats, detect and respond to ransomware attacks in real time, eliminate backup windows, and orchestrate a quick recovery in minutes when disaster strikes. NetApp intelligent services and Cloud".

- b. *購読*を選択します。
c. 適切な請求先アカウントを選択し、利用規約に同意します。
d. *購読*を選択します。

この手順により、転送リクエストがNetAppに送信されます。

- e. ポップアップダイアログボックスで、* NetApp, Inc.に登録*を選択します。

Google Cloud サブスクリプションをコンソールの組織またはアカウントにリンクするには、この手順を完了する必要があります。このページからリダイレクトされ、コンソールにサインインするまで、サブスクリプションをリンクするプロセスは完了しません。



f. サブスクリプションの割り当て ページの手順を完了します。



組織内の誰かが既に請求先アカウントからマーケットプレイスサブスクリプションを利用している場合は、次のページにリダイレクトされます。"[NetApp Console内のCloud Volumes ONTAPページ](#)"その代わり。予期しない事態が発生した場合は、NetAppの営業チームにお問い合わせください。Google では、Google 請求先アカウントごとに1つのサブスクリプションのみ有効になります。

- このサブスクリプションを関連付けるコンソール組織を選択します。
- 既存のサブスクリプションを置き換える フィールドで、1つの組織の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに自動的に置き換えるかどうかを選択します。

コンソールは、組織内のすべての資格情報の既存のサブスクリプションをこの新しいサブスクリプションに置き換えます。資格情報のセットがサブスクリプションに関連付けられたことがない場合、この新しいサブスクリプションはそれらの資格情報に関連付けられません。

他のすべての組織またはアカウントについては、これらの手順を繰り返して、サブスクリプションを手動で関連付ける必要があります。

◦ *保存*を選択します。

3. このプロセスが完了したら、コンソールの [資格情報] ページに戻り、この新しいサブスクリプションを選択します。

Google Cloud Project

OCCM-Dev ▼

Subscription

● GCP subscription for staging ▼

 Add Subscription

Marketplaceのサブスクリプションプロセスのトラブルシューティング

Google Cloud Marketplaceを通じてNetAppデータサービスにサブスクライブする際、権限が正しくない場合や誤ってNetApp Consoleへのリダイレクトに従わなかった場合、プロセスが断片化されることがあります。このような場合は、次の手順に従ってサブスクリプションプロセスを完了してください。

手順

1. "Google Cloud MarketplaceのNetAppページ"に移動して、注文の状態を確認します。ページに*プロバイダーで管理*と表示されている場合は、下にスクロールして*注文の管理*を選択します。

Pricing

 The product was purchased on 12/9/20. [MANAGE ORDERS](#)

- 注文に緑色のチェックマークが表示され、これが予期しない場合は、同じ請求アカウントを使用している組織内の他のユーザーがすでにサブスクライブしている可能性があります。これが予期せぬことである場合、またはこのサブスクリプションの詳細が必要な場合は、NetApp営業チームにお問い合わせください。

 Filter Enter property name or value

Status	Order number	Plan	Discount	Start date ↓	Plan duration	End date	Payment Schedule	Auto-renew	Next plan	
	2eebbc... 	Cloud Manager	-	10/21/21	1 month	-	Postpay	N/A	N/A	⋮

- 注文に時計と*保留中*ステータスが表示されている場合は、マーケットプレイス ページに戻り、*プロバイダーで管理*を選択して、上記に記載されているプロセスを完了します。

 Filter Enter property name or value

Status	Order number	Plan	Discount	Start date ↓	Plan duration	End date	Payment Schedule	Auto-renew	Next plan	
	d56c66... 	Cloud Manager	-	Pending	1 month	Pending	Postpay	N/A	N/A	⋮

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。